

親鸞教学 1

- 名号本尊として表現する根本本願、曾我量深、p.1
教団と教学、金子大栄、p.10
清沢満之の俗諦義について、松原祐善、p.22
教行信証の教巻の標挙について、日野 環、p.34
善悪の問題、二村竜華、p.42
正定業の論理、藤原幸章、p.50
真の仏弟子、広瀬 晃、p.62
聖徳皇のめぐみ、細川行信、p.74
菩薩的人間一願と信の考察の一節、安田理深、p.82
聖蹟の巡拝に思う、名畑応順、p.92

親鸞教学 2

- 絶対自由の根源一本願三心の背骨としての欲生心一、曾我量深、p.1
釈尊と宗祖との間一三宝帰一の課題一、金子大栄、p.20
掟の倫理、稲葉秀賢、p.29
覚存疇としての発遣と招喚、安田理深、p.44
曇鸞教学覚書、幡谷 明、p.55
行信の課題、臼井元成、p.64
王舎城の悲劇、伊東慧明、p.75
特別寄稿 わが真宗観、鈴木大拙、p.90

親鸞教学 3 清沢満之生誕百年記念号

- 自覚一清沢満之先生を憶う一、金子大栄、p.1
清沢先生の真俗二諦論、稲葉秀賢、p.14
清沢満之に対する二つの疑問、松原祐善、p.26
我が信念の内景、広瀬 晃、p.39
落在者、安田理深、p.48
夢告に憶う、正親含英、p.58
清沢先生の「精神」、西谷啓治、p.70
清沢満之は生きている、鈴木大拙、p.83
清沢先生を憶う、曾我量深、p.97

親鸞教学 4

- 正信念仏、曾我量深、p.1
教法と物語、金子大栄、p.15
教行信証における「雑」の意味、二村竜華、p.27
よびかけとめざめ一言と光と信の考察一、安田理深、p.36
我が信念の内景(二)、広瀬 晃、p.45
雑談会 親鸞教学の課題、大谷大学大学院・文学部生、p.58
超世願、立花 勝、p.67
新しい宗教的人間像、増谷文雄、p.82
わが真宗観(二)、鈴木大拙、p.94

親鸞教学 5

- 教団における大学の意義—その原理としての本願抑止—、曾我量深、p.1
経典三学、金子大栄、p.14
存在の故郷、安田理深、p.31
不廻向論、藤原幸章、p.43
浄土教興起、神戸和麿、p.57
法然上人の聖跡をたずねて、松井憲一・佐々木亮・藤井善隆、p.65
経験と体験、稲葉秀賢、p.69
悪人正機に関する私観、仁戸田六三郎、p.78
真宗概論(一)、鈴木大拙、p.92

親鸞教学 6

- 真宗大綱—悲願と智願—、曾我量深、p.1
二部作『教行信証』、金子大栄、p.15
願心莊嚴、安田理深、p.29
真宗興隆の大祖、細川行信、p.39
悪人成仏、伊東慧明、p.47
邂逅の内景、松井憲一、p.58
真宗と土着化、松野純孝、p.67
教団の形成と親鸞の立場、笠原一男、p.83
真宗概論(二)、鈴木大拙、p.98

親鸞教学 7

- 本願の名号—氷上燃火の譬喩によりて—、曾我量深、p.1
願心の廻向と光明の摂化—二部作『教行信証』(続)—、金子大栄、p.14
大行論序説、広瀬 泉、p.31
明治期における真宗教学史の素描、細川行信、p.47
仏弟子阿難について、幡谷 明、p.63
内観の道、本多 恵、p.75
『教行信証』と仏教、宮本正尊、p.82
真宗概論(三)、鈴木大拙、p.109

親鸞教学 8

- 前念命終後念即生、曾我量深、p.1
諸仏と善知識—二部作『教行信証』(三)—、金子大栄、p.13
大悲の根本、稲葉秀賢、p.25
静かなる本能、安田理深、p.38
経題のころ—「観無量寿経」の観について—、臼井元成、p.53
生れんとするもの、本多弘之、p.65
親鸞聖人と『涅槃経』、横超慧日、p.84
キリスト教と仏教、鈴木大拙、p.96

親鸞教学 9 歎異抄の世界

果遂の誓い、曾我量深、p.1

歎異抄の世界、小野清一郎、p.23

歎異抄の化風、安井広度、p.37

歎異抄と満之と鑑三、松原祐善、p.55

仏教とキリスト教との出会い—歎異抄を場として、土井真俊、p.73

慈悲の実践、稲葉秀賢、p.88

かくのごときのわれら、寺川俊昭、p.101

歎異抄的世界、西元宗助、p.112

真宗教団—その指数としての『歎異抄』—、広瀬 泉、p.126

了祥における『歎異抄』の研究、細川行信、p.143

歎異抄と臨済録、柳田聖山、p.155

源信・法然・親鸞の伝統—仮名法語による—考察—、幡谷 明、p.173

業を浄めるもの、臼井元成、p.196

柔和忍辱のこころ、藤原幸章、p.208

歎異抄の人間学的考察、下程勇吉、p.227

歎異抄における「われとわれら」の課題、伊東慧明、p.252

時熟、安田理深、p.265

一室の行者として見たる歎異抄、金子大栄、p.279

知と行、鈴木大拙、p.297

歎異抄論著目録

親鸞教学 10

本願の主、曾我量深、p.1

七人の聖者、金子大栄、p.14

ことばの魂、安田理深、p.35

摂取不捨の世界—三縁釈と親鸞聖人—、藤原幸章、p.48

末代の僧伽—浄土真宗の教団—、寺川俊昭、p.64

罪と死、杉浦慧敬、p.76

真宗の宿業観、松原祐善、p.86

自我と罪、武藤一雄、p.100

親鸞教学 11

本願の主(2)、曾我量深、p.1

浄土の経典、金子大栄、p.12

宗教心の展開—願生と浄土—、安田理深、p.25

非僧非俗、広瀬 泉、p.37

祖師の遺訓、細川行信、p.50

念仏往生の「主体性」、小野蓮明、p.59

近代における教団論の様態、柏原祐泉、p.74

真宗思想における超越と内在一社会史的観点から—、森 龍吉、p.89

親鸞教学 12

- 真宗大綱一行に就て信を立つ一、曾我量深、p.1
普遍の法、特殊の機一浄土の経典(二)一、金子大栄、p.14
宗教心の展開(二)一大乗仏教の課題一、安田理深、p.25
胎生論序説、幡谷 明、p.38
宗教的実存としての愚禿釈、伊東慧明、p.49
学としての真宗学は如何にして可能か、座談会、p.60
歎異鈔における非情の側面、稲葉秀賢、p.75
宗教的行為としての「大行」一『教行信証』の一考察一、武内義範、p.98

親鸞教学 13

- 念仏往生因果同時、曾我量深、p.1
霊山を没して王宮に出づ一浄土の経典(3)、金子大栄、p.13
愚禿親鸞の名によせて、松原祐善、p.26
莊嚴と廻向(1)、安田理深、p.45
一向専念のすすめ一教権確立の基底一、臼井元成、p.55
真仏教とその問題、久保瀬暁明、p.67
清沢満之と大谷派教団一前半生の心理分析から一、脇本平也、p.78
親鸞の「往生」の思想(1)、上田義文、p.97

親鸞教学 14

- 循環論証と果遂の誓い、曾我量深、p.1
聞と観との感応一浄土の経典(4)一、金子大栄、p.19
指方立相論、藤原幸章、p.31
胎生論、幡谷 明、p.44
歴史の発遣、寺川俊昭、p.63
学としての真宗学は如何にして可能か(2)、座談会、p.75
莊嚴と廻向(2)、安田理深、p.93
親鸞の「往生」の思想(2)、上田義文、p.105

親鸞教学 15

- 教団と浄土、曾我量深、p.1
本願と浄土一浄土の経典(5)、金子大栄、p.15
念仏者の実践一教団と倫理一、稲葉秀賢、p.30
大谷本廟留守職考一とくに覚信尼の素意をめぐって一、栗原行信、p.38
真宗教団のいのちを語る一現前する大谷派教団の批判をとおして一、広瀬 晃・伊東慧明
・寺川俊昭、p.46
果遂の誓いに聞く、中津 功、p.60
我が宗門を憶う一官長問題に寄せて一、里村暁洋、p.77
学生の頁、生田晃純・田村晃洋、漆崎正憲、渡辺智円、橋本朝陽、p.93
莊嚴と廻向(3)、安田理深、p.110
宗教の心持とその根拠一及び宗教の成立性の受容について一、石津照璽、p.123

親鸞教学 16

- 伝統に二種あり、曾我量深、p.1
道徳の限界—浄土の経典(6)—、金子大栄、p.12
莊嚴と廻向(4)、安田理深、p.23
浄土信仰の内景、臼井元成、p.38
本願の宗教、本多 恵、p.50
体失往生と不体失往生、藤原幸章、p.61
親鸞の発想法について、松野純孝、p.79

親鸞教学 17

- 選択本願の行信、曾我量深、p.1
自覚を超えて—浄土の経典(7)—、金子大栄、p.14
『大経』の悲化段について、松原祐善、p.25
莊嚴と廻向(5)、安田理深、p.43
『観経』における観の問題、増田治人、p.57
身への回帰、坂本 弘、p.66
誕生と往生、正親含英、p.74

親鸞教学 18

- 純粹未来の象徴、曾我量深、p.1
仏陀と凡夫との対話—浄土の経典(8)—、金子大栄、p.13
和国ノ教主、栗原行信、p.26
浄土宗独立の意義—立教開宗の実存論的理解への試み—、幡谷 明、p.35
誓願不思議—親鸞聖人の宗教的自覚の特徴—、寺川俊昭、p.52
行による伝統、本多弘之、p.65
人間関係より見た「迷い」と「救い」、伊香間祐学、p.78
第二十願位の一考察、藤井善隆、p.89
莊嚴と廻向(6)、安田理深、p.100
行信二巻に於ける二つの愚考—一人二位の念仏と行巻の本末無分—、大河内了悟、p.116

親鸞教学 19

- 智慧の念仏、金子大栄、p.1
誕生—聖徳太子 1350 年によせて—、藤原幸章、p.14
「ことば」としての名号—とくに『論註』を中心として—、大門照忍、p.31
法然の罪障観、江上浄信、p.44
全人の宗教、広瀬 惺、p.58
莊嚴と廻向(7)、安田理深、p.69
願心相続、曾我量深、p.92

親鸞教学 20

- 昇道無窮極、金子大栄、p.1
浩々洞の人々—清沢満之と曾我量深—、松原祐善、p.28
帰命と願生—『本願の仏地』を讀んで—、寺川俊昭、p.41
有漏の心—曇鸞の人間理解—、臼井元成、p.52
浄土教における非神話化の問題、藤吉慈海、p.62
唯識觀の契機—曾我量深先生の唯識学への感銘—、山田亮賢、p.76
歴史への発遣、安田理深、p.82
歎異のひびき、曾我量深、p.109

親鸞教学 21

- 『教行信証』の仏教思想史上の意義、安藤俊雄、p.1
行信論、金子大栄、p.18
『教行信証』と『選択集』、稲葉秀賢、p.33
真実教の開頭—『大無量寿経』の仏教史觀—、松原祐善、p.51
根本願・根本言、安田理深、p.71
光明・名号の因縁、臼井元成、p.92
瞬間と持続—行の一念を問う—、本多弘之、p.108
真実信への展開—別序の内景に即して—、安富信哉、p.123
群生海のころ、栗原行信、p.138
真宗教判論序説—親鸞の菩提心論を中心として—、幡谷 明、p.149
現生利益の考察—真仏弟子の諸問題—、大門照忍、p.180
唯除の機、小林光紀、p.197
願生の仏道—法蔵の願心への呼応—、寺川俊昭、p.211
本願力廻向、林 一宗、p.231
還相廻向の問題、小野蓮明、p.252
本願酬報の意義、江上浄信、p.281
宗祖の三経觀—特に隠顯釈によって—、藤原幸章、p.295
内觀道の実践、伊東慧明、p.310
仏性論上から見た親鸞の地位、横超慧日、p.324
鎌倉仏教の成立と『教行信証』、赤松俊秀、p.342
現代と仏教、西谷啓治、p.358
信における未来の問題、曾我量深、p.383

親鸞教学 22

- 第三の人生觀—道心を初めとして—、金子大栄、p.1
書かれざる本願、安田理深、p.14
教信沙弥ノ定、栗原行信、p.35
教主世尊の国を巡拝して、寺川俊昭、p.43
辻音楽師、可藤豊文、p.51
本願と予定、橋本峰雄、p.62
曾我先生の時代とその思想、西谷啓治、p.77
廻向の根源としての欲生心、曾我量深、p.95

親鸞教学 23

従徳論、金子大栄、p.1

出遇い、安田理深、p.13

報身についての一考察—特に因願酬報の意義を中心として—、幡谷 明、p.23

現生は願心の所与なり、本多弘之、p.46

願力への観、井上恵樹、p.57

お文の研究—タノムという意味について—、久我 信、p.68

『歎異鈔』の眼目—機の深信を中心として—、蜂箇裕善、p.79

親鸞の観経観—顕彰隠密の世界—、土方 慶、p.89

信における自力・他力、曾我量深、p.99

親鸞教学 24

顕教案宗、金子大栄、p.1

遇法の学び、安田理深、p.13

不遠の論理、大門照忍、p.24

親鸞に於ける真仮論—『教行信証』の構造—、岩城知行、p.37

信の一念について、大平真理、p.48

「悲」について、北森嘉蔵、p.60

信の開く世界、曾我量深、p.75

親鸞教学 25 特輯 法然上人

源信・法然・親鸞、金子大栄、p.1

法然上人における思想の遍歴—『往生要集』から『観経疏』への歩みを中心として、大橋俊雄、p.13

法然浄土教における信行について、坪井俊映、p.29

『選択集』思想の一展開—『選択集』と『選択密要決』を手にして—、奥村玄祐、p.42

法然における「問答」の特徴—宗教哲学的な関心からの一考察—、藤本浄彦、p.62

よき人の仰せ—「ただ念仏」と「無義意義」をてがかりとして—、臼井元成、p.82

浄土宗をひらく—凡夫報土にむまる—、藤原幸章、p.97

偈のこころ、安田理深、p.114

二種深信、曾我量深、p.129

親鸞教学 26

如の世界観(上)、金子大栄、p.1

たまわりたる主体、安田理深、p.12

本願聞思の道、臼井元成、p.30

真宗教義の根本的課題—真宗の倫理—、貴山 明、p.41

願生心について、炭竈智雄、p.49

お文の研究—掟の精神について—、法雲俊孝、p.56

現生不退論、林満由美、p.64

業縁の世界、丸尾富子、p.70

親鸞聖人の大乘仏教的救済観、石田充之、p.79

廻向と願生、曾我量深、p.97

親鸞教学 27

- 如の世界観(下)、金子大栄、p.1
はじめに願あり—入出二門の源泉—、安田理深、p.12
証空の西山義と相伝(一)、細川行信、p.24
廻向成就の信、寺川俊昭、p.38
第二十願の機に於ける宗教的自覚の問題、小野蓮明、p.50
他力信心の自覚道、蜂箇裕善、p.65
行信論管見、稲葉秀賢、p.75
宿善開発、曾我量深、p.91

親鸞教学 28

- 晩学「真宗概論」、金子大栄、p.1
本願のいのち—入出二門の源泉—、安田理深、p.15
三心内観の道、秦 治人、p.28
三願転入について、楫由美子、p.39
願生心、信楽秀道、p.46
横超の金剛心、村上秀明、p.54
教行信証「後序」について—特に「主上臣下背法違義成忿結怨」を中心に—、藤原幸章、p.63
往相と還相、武内義範、p.79
二種深信の意義、稲葉秀賢、p.94
伝統と果遂、曾我量深、p.107

親鸞教学 29

- 光輪鈔、金子大栄、p.1
信仰と自律(一)—入出二門の源泉—、安田理深、p.7
微笑と戯笑—悲喜の論理—、大門照忍、p.20
三宝成就の信心、本多弘之、p.33
海の論理—想像力と信仰—、安富信哉、p.46
三心と三信—竊推斯心の二方向—、井上恵樹、p.58
法然における民衆との接点、薄井 候、p.65
宗教的時間、稲葉秀賢、p.78
諸行と念仏、曾我量深、p.93

親鸞教学 30 追悼 金子大栄先生

- 金子大栄先生を追憶して—金子先生と『教行信証』—、p.1
追慕 金子大栄先生、寺田正勝、p.12
座談会『光輪鈔』を拝読して、大屋憲一・鍵主良敬・寺川俊昭・広瀬 晃・細川行信、p.27
信仰と自律(2)—入出二門の源泉—、安田理深、p.61
獲信、広瀬 晃、p.79
宗教と日常性、上田閑照、p.94
非僧非俗、曾我量深、p.113
真言と解釈(1)、金子大栄、p.127
金子大栄先生略歴・著作目録、p.142

親鸞教学 31

- 論義の使命—入出二門の源泉—、安田理深、p.1
実験の教学—近代真宗教学についての覚書—、幡谷 明、p.18
随順師教の意義、江上浄信、p.32
本願の表現世界—三信の歩みとして成就する衆生の信—、井上恵樹、p.44
唯除の問題、経隆 優、p.59
二河喩の顕すもの、稲葉秀賢、p.69
深く信ずる心、曾我量深、p.82
真言と解釈(2)、金子大栄、p.96

親鸞教学 32

- 究竟なるもの、安田理深、p.1
如来の本願と「唯除」—大悲の論理—、小野蓮明、p.14
『唯信抄』撰述の背景、細川行信、p.26
法然浄土教における伝統と自証について—特に観経疏を中心として—、坪井俊映、p.35
真宗僧伽の原点—因位の魂—、大城邦義、p.51
宗祖における獲信の構造、和田真雄、p.61
教相の伝統、曾我量深、p.71
真言と解釈(3)、金子大栄、p.85

親鸞教学 33

- 歴史の力—入出二門の源泉—、安田理深、p.1
親鸞における学の特質、寺川俊昭、p.14
称名破満、臼井元成、p.29
普く諸の衆生と共に—愚禿釈親鸞の名告りの意義—、延塚知道、p.41
信心仏性説をめぐる—考察、石田慶和、p.53
第二十願の内景、曾我量深、p.67
真言と解釈(4)、金子大栄、p.81
お詫びと訂正

親鸞教学 34 真宗学の現在

- 親鸞教学の一指標、松原祐善、p.1
真宗学の根本性格とその中心課題—徳川期における行信論の反省を手がかりとして—、藤原幸章、p.25
真宗学の課題と方法論についての断層、幡谷 明、p.42
真宗興隆—浄土真宗における教団と教学—、寺川俊昭、p.58
現生正定聚—その核心と外延—、本多弘之、p.72
無神論と神信仰の問題、川崎幸夫、p.92
座談会 学と信仰—真宗学の問題点をさぐる—、小野蓮明・鈴木幹雄・古田和弘・本多弘之、p.111
インタビュー 今われらに問われていること—安田理深先生に聞く—、編集部、p.139

親鸞教学 35

初期真宗教団の特質、細川行信、p.1

教学の根源—摂取から招喚へ—、本多弘之、p.16

廣大無碍のころ—入出二門の源泉—、安田理深、p.28

『日ノ所作』について、大門照忍、p.44

同一念仏の地平、秦 治人、p.57

親鸞教学の生成をめぐる—視点—隆寛の三心積領解を中心として—、田代俊孝、p.69

住立空中、曾我量深、p.82

真言と解釈(5)、金子大栄、p.94

親鸞教学 36

現生不退論、松原祐善、p.1

大行論、藤原幸章、p.21

一心の仏因—入出二門の源泉—、安田理深、p.40

「禿人」親鸞—「物語り」的内面史として、目幸黙僊、p.55

第一希有の行、江上浄信、p.73

死の象徴としての阿弥陀仏、森三樹三郎、p.86

回向不回向対、曾我量深、p.97

真言と解釈(6)、金子大栄、p.112

親鸞教学 37

光明と諸仏—入出二門の源泉—、安田理深、p.1

易往の大道、臼井元成、p.15

「われら」の地平—念仏者共同体の原像—、安富信哉、p.27

深信主体の現行、飯山 等、p.41

内観の道、松井憲一、p.53

道綽・善導二師の観経下品観比較、羽田信生、p.67

己証の開展、曾我量深、p.84

真言と解釈(7)、金子大栄、p.98

親鸞教学 38

所依の法・能依の信—入出二門の源泉—、安田理深、p.1

真宗学方法論序説(二)—真宗学の対象—、寺川俊昭、p.16

機、大城邦義、p.30

正定業の成就、和田真雄、p.40

根源的主体としての「信」、小野蓮明、p.52

親鸞における信と社会的実践、信楽峻磨、p.76

機法の分限、曾我量深、p.98

真言と解釈(8)、金子大栄、p.112

親鸞教学 39

- 一心の内観—入出二門の源泉—、安田理深、p.1
二尊の教、神戸和麿、p.17
名号の開く仏道、延塚知道、p.33
機（二）、大城邦義、p.46
妙好人浅原才市の入信に関する一考察—特にその親との関係をめぐって—、佐藤 平、p.56
アメリカの仏教の印象、小野蓮明、p.72
大悲の本、曾我量深、p.83
真言と解釈(9)、金子大栄、p.94

親鸞教学 40・41 浄土の教言

- 真実教の開顕、寺川俊昭、p.1
『大無量寿経』の回向思想、幡谷 明、p.17
宗教的真理と成仏道の実践—二尊と三仏の教示の意味—、本多弘之、p.36
法蔵菩薩の発願とその成就、小野蓮明、p.53
久遠の会座、松井憲一、p.72
仏弟子阿難—『大無量寿経』発起序試考—、安富信哉、p.88
希有の法界と成就—「希有」と「諸有」—、神戸和麿、p.103
大行が開く仏道、延塚知道、p.130
浄土三部経における信、江上浄信、p.149
値仏と聞名—如是我聞の歩み—、飯山 等、p.170
非化の世界—善悪の二重性—、秦 治人、p.178
近代における『大無量寿経』研究—暁烏敏の『五悪段講話』について—、福島和人、p.193
自然—他力の救済—、和田真雄、p.216
浄土三部経における三昧思想、大門照忍、p.236
浄土の人民—新しく生まれる“いのち”—、児玉暁洋、p.256
流通分の意味—特に『選択集』を通して—、細川行信、p.274
浄土三経の底に流れるもの、稲葉秀賢、p.289
回向、安田理深、p.305
雑感「浄土の教言」、広瀬 杲、p.326

親鸞教学 42 追悼 安田理深先生

- 真実功德の名号—入出二門の源泉—、安田理深、p.1
僧伽の学—真宗学方法論序説(3)—、寺川俊昭、p.22
内観の大丈夫—、本多弘之、p.38
正師 安田理深先生、横山久安、p.53
安田理深先生に何を学ぶか、座談会、p.61
修善と自覚、藤嶽明信、p.86
真言と解釈(10)、金子大栄、p.98
真宗学とは何か—金子大栄先生の学恩を謝す—、廣瀬 杲、p.111

親鸞教学 43

親鸞の還相回向論、幡谷 明、p.1

「謹案浄土真宗」とその意義、臼井元成、p.25

救済現成の構造、江上浄信、p.42

畢竟依、安藤文雄、p.56

清沢満之ノート—近代的信仰の確立—、熊木 剛、p.66

御同朋御同行、鳥越道船、p.76

オランダの宗教事情瞥見—安田理深先生への報告—、大河内了義、p.92

不断煩惱得涅槃、曾我量深、p.111

真言と解釈(11)、金子大栄、p.125

親鸞教学 44

ふたたび『教行信証』の後序について、藤原幸章、p.1

親鸞の仏弟子論—仏性と—闡提—、神戸和麿、p.21

『涅槃経』から『教行信証』へ—仏性論についての覚え書—、古田和弘、p.52

逆・法・闡提、三明智彰、p.70

親鸞の生死観、大門照忍、p.87

実験の宗教—入出二門の源泉—、安田理深、p.106

真言と解釈(12)、金子大栄、p.120

親鸞教学 45

真宗の証果論—平生業成を中心として—、細川行信、p.1

危機と他力—『歎異抄』からの展望—、安富信哉、p.19

凡愚遇無空過者、延塚知道、p.33

信仰的実存—本願成就の文を手掛りとして—、籙 弘信、p.53

清沢満之における「自己」、脇本平也、p.65

本願成就の一心—入出二門の源泉—、安田理深、p.82

真言と解釈(13)、金子大栄、p.96

親鸞教学 46

群萌の一乗、寺川俊昭、p.1

仏道の根拠・仏道の主題、藤嶽明信、p.18

問いとして実践される摂化—方便悲願の時間—、加来雄之、p.36

大行の源泉、井上 円、p.48

キリスト教における二重終末論、武藤一雄、p.61

願心と自覚—入出二門の源泉—、安田理深、p.78

真言と解釈(14)、金子大栄、p.99

親鸞教学 47

還相回向と常行大悲、藤原幸章、p.1

真宗学の近代化—稲葉秀賢先生の学風—、幡谷 明、p.18

『教行信証』と『浄土文類聚鈔』の関係—持名院釈秀賢師に学ぶ—、白井元成、p.36

関心の身証—稲葉秀賢先生を憶う—、江上浄信、p.48

「夢告和讃」の感得とその意義—無上涅槃道の証—、小野蓮明、p.62

往還二回向との値遇、本多弘之、p.81

本願の行者—入出二門の源泉—、安田理深、p.97

真言と解釈(15)—仏智疑惑—、金子大栄、p.115

親鸞教学 48

阿闍世論(上)、神戸和磨、p.1

浄土宗独立、安藤文雄、p.29

親鸞の時機観、一楽 真、p.50

ある解釈学的体験—ウイスコンシンの覚書—、安富信哉、p.63

師弟芳契の徴—源空より親鸞へ—、細川行信、p.75

真宗思想史上の岐路、重松明久、p.88

本願の念仏—入出二門の源泉—、安田理深、p.102

真言と解釈(16)、金子大栄、p.126

親鸞教学 49

親鸞の思想と部落解放(上)、廣瀬 杲、p.1

阿闍世論(下)、神戸和磨、p.16

往相道の根拠—『浄土論註』を中心に—、延塚知道、p.48

真実の善知識—善知識釈を中心として—、三明智彰、p.64

清浄有戒者、加来雄之、p.87

願成就の一心—入出二門の源泉—、安田理深、p.113

真言と解釈(17)—現世の光—、金子大栄、p.131

親鸞教学 50

親鸞の思想と部落解放(下)、廣瀬 杲、p.1

回向の仏道、寺川俊昭、p.19

普遍絶対の行、江上浄信、p.48

無三悪趣の願の意義、藤嶽明信、p.63

三経一論、井上 円、p.78

本願招喚の勅命—入出二門の源泉—、安田理深、p.91

真言と解釈(18)—現世利益—、金子大栄、p.111

親鸞教学 51

- 如来我となる・法蔵菩薩(上)、小野蓮明、p.1
群生海の指標、安富信哉、p.18
真実教開頭、安藤文雄、p.35
還相の利益、一楽 真、p.59
曾我量深先生を偲びて、松原祐善、p.75
真宗大綱、曾我量深、p.95
真実功德の名号—入出二門の源泉—、安田理深、p.112
真言と解釈(19)—普賢の徳—、金子大栄、p.126

親鸞教学 52

- 「三代伝持」考、細川行信、p.1
如来我となる・法蔵菩薩(下)、小野蓮明、p.15
全国水平社創立趣意書「よき日のために」をめぐって、泉 惠機、p.31
真宗は仏教とキリスト教との橋わたしととなりうるか、ヤン・ヴァン・ブラフト、p.43
広大無碍の一心—入出二門の源泉—、安田理深、p.58
阿弥陀仏とその浄土—和讃の諸問題—、金子大栄、p.73

親鸞教学 53

- 浄土教と大集経、幡谷 明、p.1
信別開のこころ—「別序」の文に聞く—、臼井元成、p.30
回向論—聖徳太子の示現—、神戸和麿、p.46
曇鸞の仏道観—『浄土論註』二道釈を中心として、延塚知道、p.73
真宗仏道の成就—「(如来)の回向に二種の相あり」—、籙 弘信、p.88
三心成就の一心—、安田理深、p.112
本願の宗教—和讃の諸問題—、金子大栄、p.120

親鸞教学 54

- 親鸞教学における「弾圧」の意味(上)、廣瀬 晃、p.1
仏種管見、三明智彰、p.15
欲生心—一如平等の意欲—、加来雄之、p.34
難度海に実践されるわれらの仏道、井上 円、p.56
金子大栄先生の御面影—如是我聞—、西元宗助、p.74
三心成就の一心(続)—入出二門の源泉—、安田理深、p.90
本願の宗教(2)—和讃の諸問題—、金子大栄、p.99

親鸞教学 55

回心の内景、小野蓮明、p.1

念仏の奥義、江上浄信、p.19

いし・かわら・つぶてのごとくなるわれら、安富信哉、p.37

課題的存在としての人間、藤嶽明信、p.53

『教行信証』における「教誡」の意味、安藤文雄、p.70

見仏と空性、梶山雄一、p.90

満足大悲の信心海、安田理深、p.110

本願の宗教(3)一和讃の諸問題一、金子大栄、p.131

親鸞教学 56

親鸞教学における「弾圧」の意味(中)、一廣瀬 杲、p.1

宗旨留難、細川行信、p.15

教学者とは何か一曾我量深の教学の出発点に学ぶ一、大城邦義、p.31

無戒名字の比丘、一楽 真、p.47

名義相応、延塚知道、p.61

還相をめぐって、佐藤正英、p.78

書評 幡谷明著『曇鸞教学の研究』、梶山雄一、p.97

紹介 寺川俊昭著『教行信証の思想』、本多弘之、p.105

本願成就の信心一入出二門の源泉一、安田理深、p.112

浄土の機縁一和讃の諸問題一、金子大栄、p.125

親鸞教学 57

浄土教における懺悔道、幡谷 明、p.1

真実と方便、臼井元成、p.22

信に内観される如来一法蔵菩薩永劫修行の内景としての「還相回向釈」一、籾 弘信、p.37

莊嚴の願から回向の願へ、本多弘之、p.60

真宗の僧伽を求めて、神戸和麿、p.77

真宗の学場への祈願、寺川俊昭、p.115

親鸞教学 58

親鸞教学における弾圧の意味(下)、廣瀬 杲、p.1

内観の系譜、加来雄之、p.19

真宗教団の原理一親鸞における同朋の自覚一、木越 康、p.34

三心章管見、井上 円、p.52

清沢満之の万物一体論、安富信哉、p.69

哲學家としての清沢満之先生、深澤助雄、p.92

親鸞教学 59

- 本願真実の教を興す『観無量寿経』——『教行信証』「総序」の文を通して——、小野蓮明、p.1
平等の大悲の開頭、藤嶽明信、p.21
真の報仏土——『教行信証』「真仏土卷」の『涅槃経』・『浄土論』・『浄土論註』の文を中心として——、三明智彰、p.36
存覚の法華問答、村上宗博、p.53
清沢満之の「信念」について、樋口章信、p.67
仏心をもって世界を見る、安田理深、p.83
現世の利益——和讃の諸問題——、金子大栄、p.98

親鸞教学 60

- 浄土の僧伽——賢者の信を聞きて——、神戸和磨、p.1
真宗大学の特質——清沢満之畢生の願い——、延塚知道、p.23
清沢満之に於ける宗教的实践とその意義について、藤原正寿、p.46
藤場俊基著『浄土方便化身土文類の研究——『弁正論』——、井上 円、p.60
国際真宗学会第五回大会に参加して、一楽 真、p.72
蓮如上人の女人成仏説の課題、池田勇諦、p.80
願心莊嚴の如来一入出二門の源泉一、安田理深、p.92
回心の伝統——和讃の諸問題——、金子大栄、p.103

親鸞教学 61

- 善知識の意義、江上浄信、p.1
愚禿釈親鸞——『教行信証』の教学課題とその主体——、安藤文雄、p.19
大谷派慈善系譜と社会福祉、佐賀枝夏文、p.40
真宗教団論——安田理深における教団論の展開——、木越 康、p.55
無一物の教育者——清沢満之の教育論——、久木幸男、p.72
本願の教学——入出二門の源泉——、安田理深、p.95
七祖の伝統——和讃の諸問題——、金子大栄、p.106

親鸞教学 62

- 明治中期の真俗二諦論と清沢満之、安富信哉、p.1
如来二種の回向、一楽 真、p.18
親鸞の宿業観——阿闍世の獲信を手掛かりに——、籙 弘信、p.29
書評 安富信哉『親鸞と危機意識』、加藤智見、p.54
真宗と宗教的多元世界との邂逅、アルフレッド・ブルーム、(訳)樋口章信、p.65
本願の教学(続)——入出二門の源泉——入出二門の、安田理深、p.79
法界と衆生——和讃の諸問題——、金子大栄、p.90

親鸞教学 63

善導浄土教の課題と本質的立場、臼井元成、p.1

内観と信心——仏弟子論としての『浄土論』(一)——、加来雄之、p.16

本願と信知、三木彰円、p.33

国際真宗学会・第六回大会の開催——「大乘の至極 浄土真宗」——、小野蓮明、p.49

第六回「国際真宗学会」に参加して、樋口章信、p.63

願生の人・清沢満之——乗托妙用の自覚から避悪就善の意欲へ——、寺川俊昭、p.78

名号を体とする一心——入出二門の源泉——、安田理深、p.103

親鸞教学 64

願生浄土—三願的証—、神戸和麿、p.1

本願の機阿難—「今、汝がために説かん」—、籠 弘信、p.22

観経二尊教—我依・菩薩蔵・頓教・一乗海—、調 晋一、p.40

曾我量深における法蔵菩薩の探求、寺川俊昭、p.56

法蔵菩薩—曾我量深先生の生涯を貫くもの—、伊東慧明、p.76

不二の心—入出二門の源泉—、安田理深、p.94

人間と社会—和讃の諸問題—、金子大栄、p.117

親鸞教学 65

信心獲得—証大涅槃の真因—、小野蓮明、p.1

本願—一乗海、藤嶽明信、p.20

清沢満之の文化・文明観、樋口章信、p.33

能動的自己、安富信哉、p.50

『歎異抄』との出会い、高 史明、p.76

尽十方のはたらき—入出二門の源泉—、安田理深、p.104

教養と信心—和讃の諸問題—、金子大栄、p.123

親鸞教学 66

真宗大学の特質—慶應義塾との対比(上)—、延塚知道、p.1

浄土真宗における「業・宿業」の問題—『浄土論註』を中心として—、安藤文雄、p.16

現代的宗教と真宗—「浄土真宗」の課題—、木越 康、p.34

如来等同の一考察、御手洗隆明、p.50

信楽と仏性—『教行信証』信楽釈における『涅槃経』の文の意義—、三明智彰、p.62

鎌倉仏教と『涅槃経』—親鸞聖人・道元禅師・日蓮聖人を中心にして—、関戸堯海、p.85

無上仏と阿弥陀仏—入出二門の源泉—、安田理深、p.104

悲喜の交流—和讃の諸問題—、金子大栄、p.125

親鸞教学 67

弥陀回向の法、江上浄信、p.1

真宗大学の特質——慶應義塾との対比（中）——、延塚知道、p.18

歎異の精神——「流罪記録」添付の意義をめぐって(1)——、一楽 真、p.37

蓮如の信仰、吉田宗男、p.53

清沢満之 信仰と社会——信仰形成 100 年を記念として——、吉田久一、p.65

破無明闇——入出二門の源泉——、安田理深、p.82

浄土の大菩提心——和讃の諸問題——、金子大栄、p.103

親鸞教学 68

『往生拾因』と永観の念仏、臼井元成、p.1

礼賛する存在——仏弟子論としての『浄土論』（二）——、加来雄之、p.19

「近・現代真宗史」学習の一方法について——「聞き書き」実習からの報告（上）——、福島和人、p.44

横超他力、藤嶽明信、p.60

法然における善導教学の受容と展開——常に宗学の特質を思いつつ——、藤本浄彦、p.79

彼の世界を観ず——入出二門の源泉——、安田理深、p.95

祈願と感恩——和讃の諸問題——、金子大栄、p.115

親鸞教学 69

往生浄土、寺川俊昭、p.1

真宗興隆の大祖、三木彰円、p.21

能生清浄願心——「二河譬」についての一考察——、花山孝介、p.38

清沢満之における『四阿含』——『教界時言』との関係を中心に——、守屋友江、p.55

未来を開く人・清沢満之——福沢諭吉の啓蒙思想を参照しつつ——、児玉暁洋、p.66

起観生信のころ、安田理深、p.94

疑惑和讃——和讃の諸問題——、p.109

親鸞教学 70

如来の作願をたずぬれば——往相廻向の行信——、神戸和麿、p.1

『末法灯明記』の引用と親鸞(前)、藤場俊基、p.20

源信における浄土の問題、内藤円亮、p.38

法然の仏教観、安藤文雄、p.56

〈共に在ること〉の不思議、古東哲明、p.72

観想と観見、安田理深、p.85

真宗と真宗学、金子大栄、p.106

親鸞教学 71

選択本願の行信とその利益——親鸞の往生理解——、小野蓮明、p.1

蓮如における宿善、一楽 真、p.21

『末法灯明記』の引用と親鸞(後)、藤場俊基、p.34

唯信仏語——深心積の課題——、大神栄治、p.53

『歎異抄』そして蓮如上人の今日的意義、高 史明、p.69

願生心の構造——入出二門の源泉——、安田理深、p.102

真宗と真宗学(二)、金子大栄、p.117

親鸞教学 72

清沢満之と精神主義——その「個」の位相——、安富信哉、p.1

凡夫の仏になる事は不思議なる事也、藤嶽明信、p.16

蓮如における正信の意義——『正信偈大意』を中心として——、池田 真、p.33

宗教的人格の探求——曾我量深における法蔵菩薩論——、加来雄之、p.52

神への欲望と大乘の論理と欲生、ヤン ヴァン ブラフト、p.76

一心の世界の背景——入出二門の源泉——、安田理深、p.93

七祖の改革——真宗と真宗学(三)——、金子大栄、p.107

親鸞教学 73

念仏のころ、江上浄信、p.1

変象する心性の観察——清沢満之における『応用心理学』開講の意味、樋口章信、p.17

蓮如と真宗教団——『キリシタン文書』によりながら——、木越 康、p.31

「近・現代真宗史」学習の一方法について——真宗大谷派における同朋会運動史を中心とする「聞き書き」作品からの報告(中)——、福島和人、p.50

今乗二尊教について——浄土門広開における時の問題——、武田未来雄、p.67

名号の響きを生きる、張 偉、p.82

みことに賜る一心——入出二門の源泉——、安田理深、p.110

回向と回心——真宗と真宗学(四)——、金子大栄、p.131

親鸞教学 74

真宗大学の特質——慶応義塾との対比(下)——、延塚知道、p.1

「近・現代真宗史」学習の一方法について——真宗大谷派における同朋会運動史を中心とする「聞き書き」作品からの報告(下)——、福島和人、p.26

道綽における時機の視点、平原晃宗、p.44

選択本願の行信——親鸞における信仰主体の問題——、小野蓮明、p.57

キリスト論・三位一体論と仏身論——ヨハネ神学の場合——、八木誠一、p.77

廣大無碍の一心——入出二門の源泉——、安田理深、p.100

願生感情——真宗と真宗学(五)——、金子大栄、p.117

《報告》「第Ⅲ回ルドルフ・オットー・シンポジウム」に参加して、木越 康、p.134

親鸞教学 75

本願の仏地、神戸和磨、p.1

二つの国——「靖国」の問題をめぐって——、中川皓三郎、p.18

「善信」と「親鸞」——元久二年の改名について——(上)、籙 弘信、p.36

親鸞における「弥勒」の考察——『大経』対告衆弥勒を通して——、山田恵文、p.49

尽十方不可思議——入出二門の源泉——、安田理深、p.62

道を求むる——第三の人生観(一)——、金子大栄、p.84

親鸞教学 76

絶望的状况に立つ教え——『観無量寿経』下品下生における教えの転換——、加来雄之、p.1

親鸞における教学の視座(上)、三木彰円、p.22

「真の自力」としての信念——西谷啓治の清沢満之観——、田村晃徳、p.36

「善信」と「親鸞」——元久二年の改名について——(下)、籙 弘信、p.50

絶対自由の精神——入出二門の源泉——、安田理深、p.69

第一人生観の成立——第三の人生観(二)——、金子大栄、p.85

親鸞教学 77

生活の根拠としての願生、一楽 真、p.1

親鸞における教学の視座(下)、三木彰円、p.16

親鸞の菩提心観、曾我円成、p.46

広大無碍の世界——入出二門の源泉——、安田理深、p.58

自然の実相——第三の人生観(三)——、金子大栄、p.72

親鸞教学 78

回向成就の信——本願成就の教説——、小野蓮明、p.1

自身を深信す、藤嶽明信、p.18

井上円了の真宗哲学、樋口章信、p.36

日本人の超越感覚、竹内整一、p.58

彼の世界——入出二門の源泉——、安田理深、p.81

第二人生観——第三の人生観(四)——、金子大栄、p.95

親鸞教学 79

無碍道——親鸞の仏道の積極性——、延塚知道、p.1

真宗(もしくは真宗学)における「実践学」の可能性、木越 康、p.13

「化身土巻」標挙の意義——「三願転入」以降の展開を中心として——、小川直人、p.35

現代社会における浄土真宗の倫理——グローバル的視点——、ケネス・タナカ、p.48

大地の心としての大悲心——入出二門の源泉——、安田理深、p.65

普遍なるものと一般なるもの——第三の人生観(五)——、金子大栄、p.78

親鸞教学 80・81

- 清沢満之の名号論——如実修行相応——、神戸和麿、p.1
歓喜と慶喜、中川皓三郎、p.31
清沢満之における縁起の概念、今村仁司、p.46
清沢満之と真宗大谷派教団——白川党宗門改革運動をめぐって——、橋田尊光、p.62
真宗大学開学の精神、延塚知道、p.76
大谷大学の役割——満之における近代化——、小川一乗、p.103
大谷派なる宗門は大谷派なる宗教的精神の存する所に在り、寺川俊昭、p.127
「疑惑和讃」試解、平原晃宗、p.152
教法を問う——教法の現実性と時機観——、鶴見 晃、p.169
臘扇記（百回忌）法要報告、p.185

親鸞 82・83

- 清沢満之の「信念」——その源泉と内実——、小野蓮明、p.1
清沢満之における宗教言説の問い直し、加来雄之、p.18
真宗教学の近代化と現在——浄土理解の変遷を通して——、木越 康、p.50
近代親鸞教学の基本的視座、水島見一、p.69
個立と協同——石水期・清沢満之を手懸かりとして——、安富信哉、p.97
日本における西洋哲学の受容と清沢満之、藤田正勝、p.114
金剛の真心、高木淳善、p.131

親鸞教学 84

- 根本問題としての自己——清沢満之に学ぶ——、藤嶽明信、p.1
「道理心」と「宗教心」、田村晃徳、p.26
レヴィナスと清沢満之——宗教哲学における「倫理」の位置——、マーク・ブラム、p.45
乗托妙用の自己——「予の三部経」——、神戸和麿、p.62
『大経』の「自然」・老荘の「自然」、山田恵文、p.88
現生正定聚——「還相回向釈」、「観察体相章」の引文に注目して——、小川直人、p.107

親鸞教学 85

- 無碍道（下）、延塚知道、p.1
清沢満之と多田鼎の宗教言説、加来雄之、p.16
敗戦と真宗、水嶋見一、p.40
法然における「不廻向」について——親鸞の廻向思想形成に関する一考察——、本明義樹、p.73
一心の世界観から入出の門へ——入出二門の源泉——、安田理深、p.85
わが行く道とわれらが道——第三の人生観（六）——、金子大栄、p.104

親鸞教学 86

信の開頭——『選択集』「三心章」開設の意義——、安富信哉、p.1

六角堂夢告 再考、井上尚美、p.17

凡夫に開かれる仏道、中川皓三郎、p.48

苦悩の意味——ヴィクトール・フランクルの人間観——、山田邦男、p.65

一生參学の大事ここにおわりぬ——入出二門の源泉——、安田理深、p.92

立教開宗と顕教案宗—第三の人生観（七）——、金子大栄、p.106

親鸞教学 87

願生浄土の自覚道——帰命と願生——、小野蓮明、p.1

無窮の志願——「坂東本」修復・復刻事業を通して——、三木彰円、p.21

現在の信念における無限大悲の実現——清沢満之における「現在安住」の時間的側面に関する考察——、西本祐攝、p.37

還相の利益——「還相回向釈」、「善巧摂化章」から「障菩提門」への展開を中心として——、小川直人、p.56

永遠不生の世界——入出二門の源泉——、安田理深、p.71

自利と利他—第三の人生観（八）——、金子大栄、p.87

親鸞教学 88

「浄土真宗」考、中川皓三郎、p.1

真宗における「内的平和と暴力の克服」——第五回ルードルフ・オットー・シンポジウムより——、木越 康、p.17

報化二土の弁立——「化身土巻」本巻所引『往生要集』文の意義——、義盛幸規、p.37

昭和初期の仏者たち(上)——興法学園——、水島見一、p.55

学問とは何か、阿部謹也、p.72

三千大千世界——入出二門の源泉——、安田理深、p.98

求めるものと与うるもの—第三の人生観（九）——、金子大栄、p.110

親鸞教学 89

報土の往生、藤嶽明信、p.1

「三毒五悪段」考——『大阿弥陀経』と『大無量寿経』における位置を通して——、山田恵文、p.19

親鸞における一仏乗開頭の視座——法然と、貞慶・良遍を通して——、藤元雅文、p.36

昭和初期の仏者たち(下)——興法学園——、水島見一、p.51

如来の智慧海は深広にして涯底なし——入出二門の源泉——、安田理深、p.66

人生と永遠—第三の人生観（一〇）——、金子大栄、p.78

親鸞教学 90

已に僧に非ず俗に非ず、加来雄之、p.1

韋提希における「未来世」という課題、一楽 真、p.28

「他力門哲学」における覚醒の構造、伊東恵深、p.43

真宗教学の近代化にみる「真宗」学の課題、木越 康、p.62

近代の宗教観と現代教学の課題、島藺 進、p.85

かたちをあらわし御なをしめす——入出二門の源泉——、安田理深、p.111

親鸞教学 91

宿業の身が開く願心莊嚴の浄土、延塚知道、p.1

「ただ念仏」の原型——『スッタニパータ』『彼岸道品』に謳われる念仏と信心——、井上尚実、p.15

石水期・清沢満之における『現生正定聚論』の究明（上）——清沢満之における「現在安住」の思想的背景——、西本祐攝、p.37

近代初頭の真俗二諦論とその歴史的課題、森 剛史、p.58

坂東本『教行信証』「信巻」の序前の文、試論、斉藤 研、p.77

仏法不思議——入出二門の源泉——、安田理深、p.93

親鸞教学 92

呼応の真宗学、安富信哉、p.1

誓願一仏乗の機、藤元雅文、p.15

「願生浄土」の歩みに獲得される浄土の眷属——「共に生き、共に育つ」学びの獲得——、富岡量秀、p.28

『浄土論註』の論理——名義相応の視点から——、安藤義皓、p.49

「文類」といういとなみ——親鸞における宗教言説の伝承——、加来雄之、p.59

広大無碍の真心——入出二門の源泉——、安田理深、p.93

親鸞教学 93

金子大栄『宗教的覚醒』について——真宗と社会——、水島見一、p.1

伝承といういとなみ——実践仏教の解釈学——、下田正弘、p.23

信に死し願に生きん、児玉暁洋、p.45

偏依法然と七祖の伝統——『教行信証』の諸問題——、金子大栄、p.68

願心と願力——入出二門の源泉——、安田理深、p.81

親鸞教学 94

部落差別問題と真宗学、谷 眞理、p.1

選択本願の行信——本願の行信に開かれる生——、小野蓮明、p.17

本願念仏の一道、藤嶽明信、p.33

「逆対応」の論理と「逆超越」——キェルケゴールの『死にいたる病』をめぐって——、細谷昌志、p.60

回向と摂化——『教行信証』の諸問題(二)——、金子大栄、p.79

不可思議力成就の世界——入出二門の源泉——、安田理深、p.93

親鸞教学 95

- 大乘の至極——入出二門の往生浄土から大般涅槃道へ——、延塚知道、p.1
石水期・清沢満之における「現生正定聚論」の究明(下)——清沢満之における「現在安住」の思想的背景——、西本祐攝、p.17
「善信」実名説を問う(上)、籙 弘信、p.40
本願の正機——「唯除」の文を通して——、青木 玲、p.55
教養と信心——『教行信証』の諸問題(三)——、金子大栄、p.70
安楽の至徳を示す——入出二門の源泉——、安田理深、p.85

親鸞教学 96

- 「积親鸞」の遺産相続 上 ——「鏡御影」を手がかりに——、加来雄之、p.1
親鸞と『西方指南抄』、山田恵文、p.21
「善信」実名説を問う(下)、籙 弘信、p.38
関東の親鸞——三部経千部読誦の中止を通して——、一楽 真、p.57
親鸞聖人稲田草庵とその環境、今井雅晴、p.80
如来二種の回向——『教行信証』の諸問題——、金子大栄、p.102
存在論的要求としての願生——願生論(一)——、安田理深、p.117

親鸞教学 97

- 近代における浄土教研究——近代真宗学の方法論——、安富信哉、p.1
「积親鸞」の遺産相続 下 ——「鏡御影」を手がかりに——、加来雄之、p.20
親鸞における曇鸞浄土教の受容と課題、本明義樹、p.38
善導教学の源泉としての『安楽集』——本願論と行業論を中心に——、マイケル・コンウェイ、p.58
本願を宗とし、名号を体とす——『教行信証』の諸問題(五)——、金子大栄、p.76
発遣と招喚——願生論(二)——、安田理深、p.90

親鸞教学 98

- 曾我量深の自覚道(上) ——「法蔵菩薩」論——、水島見一、p.1
一乗釈と『教行信証』の課題、藤元雅文、p.30
清沢満之における「実験」——近代教学の特質——、後藤智道、p.49
親鸞における『教行信証』の課題、三木彰円、p.70
長楽寺隆寛の足跡——青蓮院門徒から法然門弟へ——、善 裕昭、p.87
教主积尊——『教行信証』の諸問題——、金子大栄、p.104
内在的超越——願生論(三)——、安田理深、p.120

親鸞教学 99

- 親鸞における「個の尊厳と存在の平等」——その成就の原理と事実——、谷 眞理、p.1
曾我量深の自覚道（下）——「法蔵菩薩」論——、水島見一、p.18
親鸞と末法（上）、木越 康、p.40
金剛心の源泉——親鸞の摂取不捨観——、藤原 智、p.61
親鸞の多面性——鈴木大拙と『イースタン・ブuddhist』を通して——、ジェームズ・C・ドビンズ、p.82
正智と真理——『教行信証』の諸問題(七)——、金子大栄、p.114
自由と必然——願生論(四)——、安田理深、p.127

親鸞教学 100

- 浄土と世界、一楽 真、p.1
親鸞と末法（下）、木越 康、p.18
誓願一仏乗——本願力によって実現する無上仏道——、佐々木秀英、p.39
普遍宗教としての浄土真宗——無償の贈与を平等に分ち合う思想——、井上尚実、p.59
普遍宗教と哲学、柄谷行人、p.85
普遍の法と必然の理——『教行信証』の諸問題（八）——、金子大栄、p.110
衆生の自覚としての本願——願生論(五)——、安田理深、p.126

親鸞教学 101

- 親鸞と法然との出遇い（上）、延塚知道、p.1
『選択集』における菩提心廃捨の意義——『摧邪輪』との比較を通して——、相馬 晃、p.19
畢竟成仏の道路——『浄土論註』親鸞加点本に注目して——、小川直人、p.38
如来二種の回向——『浄土論註』の回向論と親鸞の視座——、亀崎真量、p.57
伝承と己証——『教行信証』の諸問題(九)——、金子大栄、p.77
純粹なる有限なる自己——願生論(六)——、安田理深、p.95

親鸞教学 102

- 『大無量寿経』における「難し」の思想（上）——伝承の難・己証の難——、加来雄之、p.1
浄土宗独立における法然の釈尊観、光川眞翔、p.27
『教行信証』の核心、延塚知道、p.45
逆説弁証法の射程——キェルケゴールと親鸞をめぐって——、山下秀智、p.66
一乗海——『教行信証』の諸問題(十)——、金子大栄、p.96
自己成就と自体満足の信念——願生論(七)——、安田理深、p.111

親鸞教学 103

- 親鸞晩年の回向論、延塚知道、p.1
『大無量寿経』における「難し」の思想（下）——伝承の難・己証の難——、加来雄之、p.23
大谷大学の学的精神——清沢満之・村上専精——、水島見一、p.44
退一步の精神——『教行信証』の諸問題(十一)——、金子大栄、p.67
独立者——願生論(八)——、安田理深、p.82

親鸞教学 104

- 現生正定聚と浄土の慈悲（一）—「最後の親鸞」に学ぶ—、井上尚美、p.1
果遂の誓い、良に由あるかな、橋本彰吾、p.28
臨床仏教としての親鸞思想、木越 康、p.47
臨床哲学の〈引き込まれ〉—自己変容論として—、中岡成文、p.79
易往難信の理由—『教行信証』の諸問題(11)、金子大栄、p.103
無分別智の分別—願生論(9)、安田理深、p.119

親鸞教学 105

- 親鸞における三経観（一）、三木彰円、p.1
「歎異抄」と清沢満之（一）—諸問題と研究の方向性—、西本祐攝、p.16
斯れ等の真教云何思量せむや—問いの性質—、難波教行、p.35
呼応の交感—『教行信証』の諸問題(13)—、金子大栄、p.58
相対と絶対—願生論(十)—、安田理深、p.73

親鸞教学 106

- 「望佛本願」の文について、藤嶽明信、p.1
『愚禿鈔』における「二種深信」についての一考察、藤元雅文、p.19
念仏伝承の志願とその源泉—法難、「隠れ念仏」の歴史を通して—、鳴 一志、p.35
清沢満之と教化の課題、藤原正寿、p.50
「わが心慰めかねつ」について、竹内整一、p.71
信心の問答—『教行信証』の諸問題（十四）—、金子大栄、p.101.
分限の自覚と使命—願生論(十一)—、安田理深、p.117

親鸞教学 107

- 勅命に二種あり、一楽 真、p.1
親鸞と『西方指南鈔』——勢至に関する言説を巡って——、山田恵文、p.17
必可超証大涅槃——正定聚之機の具体相——、青柳英司、p.38
学ぶこと わかること、真城義麿、p.56
正定聚の機——『教行信証』の諸問題(十五)——、金子大栄、p.79
名言と自覚——願生論(十三)、安田理深、p.95

親鸞教学 108

- 我、仏教と相応せり——『大無量寿経』と「優婆提舍」——、加来雄之、p.1
清沢満之『臘扇記』とエピクテトス、川口 淳、p.27
国際真宗学会参加報告、マイケル・コンウェイ、p.51
師教の恩厚を仰ぐ、水島見一、p.63
逆謗の抑止——『教行信証』の諸問題(十六)——、金子大栄、p.77
根元の名のり——願生論(十三)——、安田理深、p.95

親鸞教学 109

一心帰命と一心願生、延塚知道、p.1

無義意義——親鸞晩年の課題と二種回向——、中山量純、p.21

「愚禿善信」考——文明版「正像末和讃」の選号をめぐって——、籙 弘信、p.38

曇鸞大師「無生の生」の誤謬説を嘆く、鍵主良敬、p.55

仏となる道——『教行信証』の諸問題(十七)——、金子大栄、p.78

自己の根元と自己との対話——願生論(十二)——、安田理深、p.94